



南中だより

平成29年7月20日
白石市立南中学校
第5号
Tel. 28-2013
文責：教頭 小関 和弘

校内研究フォーラム

7月14日に第1回校内研究フォーラムを開催しました。目的は次の2つです。

①外部講師を招き教職員が指導を受けることにより「協同学習」についての理解を深め、今後の研究推進の指針にする。

②近隣の小・中学校及び高等学校の先生方に校内研究を公開し、校種の枠を超えた実践研究の在り方を探る。

「協同学習」とは、「学び合い」を通して生徒全員が主役になる授業展開を目指すものであり、今注目を集めている学習指導法の一つです。

このフォーラムには他校から40名の先生方(小:19名 中:6名 高:15名)が参加し、30度を超える猛暑にもかかわらず真剣な学びを展開しました。

午前中は太田教諭(美術)、熊谷教諭(音楽)、川村教諭(英語)が校内で公開授業を行い、講師の杉江修治氏(中京大学教授)の指導・助言を受けました。

午後は引地克博教諭が3年数学「2次方程式」の授業を公開し、授業終了後には参加者が4人ずつのグループを作り、公開授業についての研究協議を行いました。

最後は講演です。講師の杉江教授は日本協同教育学会の会長であり、協同学習の草分け的存在です。今回はこのフォーラムのために日程を調整していただき、遠路名古屋からお越し願いました。「学ぶ意欲をもち、自ら学び続ける生徒の育成」と題した講演はたいへん示唆に富むもので、参加者は貴重な学びの空間を共有することができました。

参加者の感想をいくつか紹介します。

- ・自分の考えを自分の言葉で伝えられる生徒が多くいることに驚きました。また、説明がわからないときに「わからない」といえる生徒もいたので、互いに学び合える環境が作られていることを実感しました。(中学校教諭)
- ・校種の異なる先生方と公開授業について様々な意見交換ができたことは、たいへん有意義であった。校種が違っていると見方や見方も違ってくると自分なりに考えることができました。(高校教諭)
- ・自ら学ぶ姿がどういうものか、はっきりとイメージできる講演でした。日々の授業で修正をかけなければならないところがたくさん見つかりました。(小学校教諭)
- ・これだけ多くの先生方が南中を訪れることがあるのでしょうか。城南高校や田尻さくら高校の校長先生はじめ、多くの先生方が参加されました。これは、南中の先生方への期待だと思えます。子どもたちの人数ではなく、少ない子どもたちでも一生懸命頑張っている生徒や先生方の姿を見に来たのだと思えます。今後も子どもたちのためにお互いに頑張りましょう。(高校教諭)

紙幅の関係でここまでの紹介といたしますが、参加者の感想からも貴重な学びの機会だったことがわかります。これからも南中学校の教職員は一枚岩になり、今回の学びを生徒に確実に還元してまいります。

